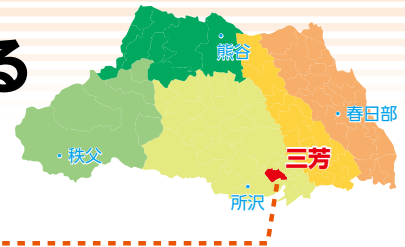


イチ押し

## 地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー②

三芳町 林 伊佐雄 町長 (56歳)



休日のサイクリングが楽しみと語る林 伊佐雄 町長

### スマートICフル化による地域経済の活性化

地方分権が進む中で、どこの自治体も厳しい財政状況下にあります。とくに、当町は、長らく普通交付税不交付団体でしたが、昨年度は、13年ぶりに交付団体となってしまいました。

その打開策として、いま、進めているのが関越自動車道三芳パーキングエリア (PA) 併設のスマートICのフルインター化です。実は、当町は、平成17年(2005)から全国でもいち早くスマートICの社会実験を行い、翌年には-half運用(新潟方面のみ利用可能、車種は普通車のみ)で恒久設置となりました。



関越自動車道三芳PAに併設されているスマートIC。フルインター化により、東京方面からも乗り降りができるようになる。

現在、一日の利用台数は4,500台、half運用では全国でトップクラスです。

その一方で、東京方面からの利用はできない、車種もトラックや観光バスは利用できないということがあり、かねてから事業者や各団体、住民の皆さんからフルインター化への要望がありました。現在、利便性の向上や観光促進、企業誘致や留置を目的にスマートICフル化等促進会議(46団体)を設置し、国や県、ネクスコと協議を進めているところです。

三芳PAは、都心から30キロ、圏央道と外環道の中間に位置し、ポテンシャルの高い地域です。また、事業継続計画の観点から、災害に強い当町の地勢(大きな河川や山がなく、武蔵野台地に位置して地盤が安定している)に着眼し、当町への進出を選択する企業も増えてきています。

遅くとも東京オリンピックが開催される2020年までには、フルインター化を実現していきます。

### 三富新田を世界農業遺産に

三芳町は美しいヤマ(平地林)と田園風景が残る農業が盛んな町でもあります。小さな町ですが、ほうれんそう、かぶ、人参、サトイモなどは、埼玉県内の市町村でも作付面積は上位です。

さらに、<sup>かみとめ</sup>上富地区は「<sup>とめ</sup>富の川越いも」の本場で、30軒以上のサツマイモ農家が直売やいもほり観光農園、焼酎などの6次産業化に取り組んでいます。狭山茶も栽培農家数は少ないものの、毎年のように農林水産大臣賞を受賞し、「みよし野菜」としてブランド化されて首都圏の消費者には高い評価を得ています。

そして、いま、<sup>さんどめ</sup>三富新田の世界農業遺産（GIAHS）の認定を目指して、手続きを進めています。

世界農業遺産とは、社会や環境に適応しながら発達した伝統的な農法、それによって文化や景観、そして生物多様性に富んだ重要な地域を次世代へ継承していこうという国連食糧農業機関（FAO）が創設したプログラムです。世界で13カ国31地域が認定を受けており、これまで日本では5地域が認定されています。

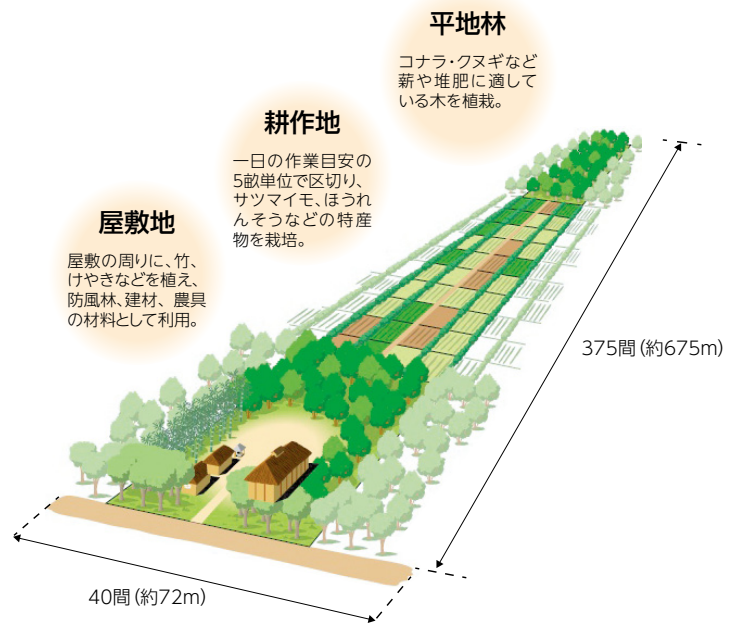
三富新田は、17世紀末、当時の川越藩主・柳沢吉保によって開発された地域であり、かつては「江戸の台所」、今では「首都圏の台所」として発展しています。間口40間（約72m）、奥行き375間（約675m）の短冊状に地割され、道路側に屋敷があり、続いて畑、奥にクヌギやコナラなどの平地林が並ぶのが特徴で、落ち葉を堆肥として使った循環型農業を320年にわたって続けてきました。

以前から有識者の皆さんからご推薦をいただいていたのですが、昨年、5月に石川県七尾市で「世界農業遺産国際会議」が開催された折、会議に参加し、三富新田の循環型農法が大変素晴らしいものであると再認識いたしました。すでに、特徴的な地割や伝統的な農法は、JICAによって南米チリのサンペドロ村で砂漠化防止にも成果を上げていますし、パ

### 三芳町の概要

人口（平成22年国勢調査）	38,706人
世帯数（同上）	13,940世帯
平均年齢（同上）	44.4歳
生産年齢人口比率（同上）	62.8%
面積（同上）	15.3平方キロメートル
名目市内総生産（平成22年度市町村民経済計算）	1,885億6,900万円
事業所数（平成24年工業統計）	166事業所
製造品出荷額等（同上）	1,636億3,593万円
事業所数（平成24年経済センサス）	1,524事業所
年間商品販売額（平成19年商業統計）	1,024億5,200万円

## ●世界農業遺産認定を目指す三芳町の「<sup>さんどめ</sup>三富新田」



レスチナやセネガルなど海外からの視察もあり注目されています。

### 早ければ来年5月には認定!?

現在、世界農業遺産推進協議会を設立して農林水産省へ認定申請をしているところです。国内で7地域ほどが申請をしています。まずは国内選考で残り、来年5月に開催される世界会議での認定を目標にしています。埼玉県の上田知事や関東農政局にも全面的に応援していただいています。

認定されることにより、当町はもとより、みよし野菜の知名度が上がり、ブランド化や観光促進にも役立つと期待しています。

そして、320年前に先人たちが開拓し、残してくれた美しい平地林、田園風景、そこに息づく生物多様性や代々継承されている文化や精神を後世にしっかりと伝えていくのが、今を生きる我々の使命と感じています。

今回は、かつて青年会議所でもにまちづくりに汗を流した幸手市の渡辺邦夫市長にバトンタッチします。